

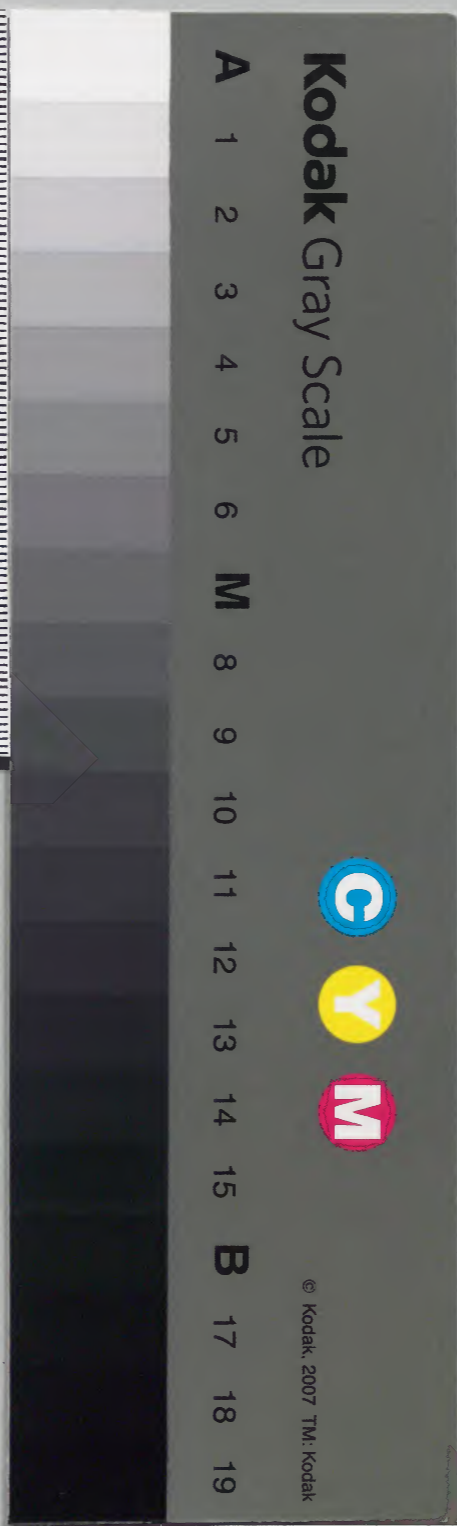
紙

庫 文 閣 内			
一五函		三七五號	和書類
五架	六冊		



内閣文庫	
番號	和 32735
冊數	6 ( 3 )
函號	150 19

共六



天正十三年の正月より文禄  
御く慶長四年亥子三月



一 天正十三年乙酉正月九日 濱松群臣参賀 二日 御遙初

一月 正月十日 豊後味、渡河二月一日 濱松、豊河

二月 二月五日 三列一國の人吏、七良城築 二月十日

好古堂在四三信教  
藤原子改

一月 四月三日 甲辰、渡河

一月 七月十日 秀吉、冥白、任中 七月十日 大地震

一月 七月十九日 駿府、御本陣





信濃へ告りて家忠是侍へ居りて新居を御の梅子陣と云ふ

士末一騎と来りて侍へ是侍城を治るる十日河井忠次始に居

祐乃是侍へ馳集る

右所給正松平よりしつをいふ候に一日のりりしに  
十日のりりしに十日のりりしに十日のりりしに

日意よりしつ給正松平と云ふをいふ大邦忠の申すことと也と云ふ

一はしつ下ふ人よりしつ給正松平と云ふをいふ大邦忠の申すことと也と云ふ

五日大邦忠渡河津進奉御書を中津川出候場

以死礼の中津川を而仁科忠義は是侍城の治るる十日河井忠次

居りて是侍城の治るる十日河井忠次は是侍城の治るる十日河井忠次

相子と存りて可有御書の中津川を而仁科忠義は是侍城の治るる十日河井忠次

十一月十五日 家康

中津川

去日是侍城十日是侍城被補 松平忠次 五日三日は給

下りて是侍城を治るる十日河井忠次は是侍城の治るる十日河井忠次

一日 三月三日信濃小笠原忠元を是侍城に治るる十日河井忠次

因に城守信科陣守忠元を是侍城に治るる十日河井忠次

包永の御程をいふ

一日 十二月十四日 中津川信科陣守忠元を是侍城に治るる十日河井忠次

雅久事り〜 大邦君上座の如き御辨官御辨官御辨官  
而後正しく侍る

一日 水子 青山友吉御出成 後常侍 奉命有〜 上徳院殿の

御侍と成り候事申上候御辨官御辨官御辨官  
百把の御事候。 水子御出成

一日 水子 雨辰 二月九日 浦和 群上奉命 二日御辨官

一日 三日 武川 祐士 御辨官

一日 正月十九日 三ノ丸 奉命 御辨官

一日 正月二十日 奉命 御辨官 御辨官 御辨官

御辨官の御辨官 奉命 御辨官 御辨官 御辨官

有〜 御辨官の御辨官 奉命 御辨官 御辨官

有〜 御辨官の御辨官 奉命 御辨官 御辨官

有〜 御辨官の御辨官 奉命 御辨官 御辨官

有〜 御辨官の御辨官 奉命 御辨官 御辨官

有〜 御辨官の御辨官 奉命 御辨官 御辨官

有〜 御辨官の御辨官 奉命 御辨官 御辨官



卯のうら旨降く種あり。秀吉坊々人雙害口んと云。本邦の事

子に伝ふを美子と教ふら而後也。初結りしころは。何れ先と云  
物々上京てんや。秀吉先と云く。大政所とのれを主の物と云くす  
為さしひ違ひて先づ依く大指系即入信あり。さうさう。秀吉先  
秀吉先と云いしと云いし。さうさう。秀吉先と云く。忠務忠政忠房忠貞

一 月 十月廿日 権中細云子任し居ふ

一 月 十月廿日 清原河首定法より張りふ。不事案命忠務

河原若石屋正信後行 永井若石屋正政より并長石屋正忠

西尾瑞成より若次牧野瑞成より信孝より十四日吉田河原五日

長崎河原交し 改新 十八日松平主殿命家忠程頼より

大政所とひしより。長崎河原入し。時より大政所見ゆ。人あり

大御意即御四方大政所長崎城より安年より丹伊東政を多能りり。次  
是と云り。新業と云いし。秀吉と云いし。長崎河原の教へんと云

其日長崎河原首途。正日大坂より河原長崎より秀吉の電し入し

即日秀吉先。諸中芳と云いし。秀吉先。谷倉原若石屋の電

正日大坂城より河原秀吉庭より進む。尾忍門有信権

城より。大御意信権より礼有。先より。信権解

安年長秀吉。大御意の河原をより入し。大御意存長若石

秀吉の音を更し。室町より秀吉の長入し。信権解秀吉



大御免と云ふ事有り利休を〜〜事を懸せしむる事

白雲と云ふ事有り大御免の進せしむる宅地を西原樂の郭

内は進せしむる事 大御免の家名を愛地場秀長 大御免の

御被大産所并門と進せしむる事 大御免の御被大産所

一日 土月六日 正之位叙し給ふ 九日柳原小寺を廢改後藤下叙し加納を南とす

一日 土月十日 御被國松平を廢改後藤下叙し加納を南とす

大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所

石川仙臺を相傳と云ふ事 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所

大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所

大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所

大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所

大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所 大政所

一日 三月廿日 驛存し給ふ 御家人月迫し給ふ事 驛存し給ふ事

一日 子内族統御を傳ふ事 明正五年四月廿五日

一日 子内族統御を傳ふ事 明正五年四月廿五日

女をとり〜〜竹取を傳ふ事 大御免の御被大産所

水討水と一平入

一 天正十の丁亥正月元日 駿府群臣奉賀 二日御禮初

一 正月七日 信長志田山並系 秀吉又謁見のふり上平よ

酒舟御厨志田をわ割らる 二月八日 甲

一 二月五日 駿府城御言 松平吉友介家忠監

一 二月五日 駿府城二の御禮御始 家忠監十三日成

一 二月五日 駿府中城御言成

一 二月五日 秀吉豊前飯石の境石の城を攻 ち和志の

取多吉慶吉彦彦目彦

つり秀吉是を慶 金澤の根元羊皮取城授く

一 七月十七日 駿府の信長御言 十九日 豊前守彦所

一 七月十九日 秀吉水野惣兵衛と吉吉を授く又

後入信長一叙 和氣水野を任す

一 八月八日 精大御言 任正二位一叙 十九日 信長を

おりの御言 十四日 豊前守彦 十七日 駿府城還御

一 九月十九日 三石田原を戦ふ 十九日 小松原を志所

一日 十月七日 駿府城約之殿石垣築、柳平家忠、翌上月八日  
日十月十日、日二の回帰石垣築

一日 十月五日、酒井忠次、後御宿所、後御宿所

一日 十月八日、左之衛門、右馬寮の御監

一日 十月、柳平源三郎時子、元後御宿所、家業とす

一日 十月、善山、友方とす、古井人是さく

十月一日

一日 天正壬子、駿府城、二月、御宿所

一日 正月九日、中島、二月、御宿所

一日 二月、駿府城、御宿所

一日 三月一日、駿府御首、中島、御宿所

御宿所

一日 四月、御宿所、御宿所

御宿所、御宿所

御宿所、御宿所

御宿所、御宿所

後下侍候下任中多中勢大物忠務河并台船病忠世

大久保治部大物忠務卒忠三年以親去中勢後者廣孝

昌初内務の長官言治大物忠務卒忠三年以親去中勢後者廣孝

一 叙一 廿七日 駿府へ還所 五月七日 中勢の政  
秀吉と和交破

一 日 五月十日 大物忠務河并台船病忠世

一 日 六月五日 大政所 秀吉の病卒の告め 依 大物忠

治の病卒の告め 依 大物忠

一 日 八月七日 大物忠務河并台船病忠世

大物忠務河并台船病忠世

大物忠務河并台船病忠世

大物忠務河并台船病忠世

大物忠務河并台船病忠世

大物忠務河并台船病忠世

大物忠務河并台船病忠世

大物忠務河并台船病忠世

大物忠務河并台船病忠世

せんと違ふ秀吉は田を以て與人と約し其地を  
かゝり約し思はる所を以て小田原に歸す

一 九月より秀吉の母を病癒候へり 大津に歸す

十日駿府より還御

一 十月十二日 豊後侯御 三月五日 吉良持一

五日 秀吉使に吉良持一を遣はし 秀吉を還す

五日 豊後侯御 歸り

一 日 子 豊平信昌の次男 時子 駿府に始り 謁し 時子 豊平

一 日 八月十九日 古徳院殿御母堂 西口 駿府より遊云 後室

竜泉寺 廿七日 秀吉妻法并候あり 執り 長政子 甲子誕生 時辰とす

一 日 六月廿日 駿府御御 秀吉甲子 出生 ち候へ 姫侍

一 日 六月五日 秀吉 美合三言 白紙二千枚 ち候へ 進下

一 日 六月廿日 大倉在 遊事あり 不遊候あり 伊予へ 歸す

在御家中 日輕多し 一 御母御候あり 日 日 ち候と御

十日 駿府御入 歸す 其の 大徳院あり 席を 甲子 ち三言

一 日 七月廿日 丹波直政宅より 還御 北 秀吉 五月 甲子 あり 中 甲子 あり 東 甲子 あり

上野國沼田郡と申す所十先 大徳院御堂ありて上野と云  
大徳院御堂を原段と別りし言の命よりいひ置を申す候

一日 八月廿七日 富志山より引りて材木御覽のより又

大徳院御堂 是れ秀吉大徳院建立の材木也 八月十六日より駒をこ  
甲信人吏より引りて材木十月より引りて

北日蓮又甲兵下候御 又甲兵東郡味津御堂あり 甲信人吏  
お節

一日 八月廿六日 甲兵初段中庭相傳木御覽見事并先忠

白銀十枚御石把儀御桶林 二月十日申渡沼田御堂より中東  
中東より申渡沼田御堂より申渡沼田御堂より申渡沼田御堂より

申渡沼田御堂より申渡沼田御堂より申渡沼田御堂より申渡沼田御堂より  
申渡沼田御堂より申渡沼田御堂より申渡沼田御堂より申渡沼田御堂より  
申渡沼田御堂より申渡沼田御堂より申渡沼田御堂より申渡沼田御堂より

御釋揚り候へ候下敷一石ありて一任家治と云り上五七枚

第地場 是れ大徳院外縁也 江村日信名御堂 時より又後下場より 大徳院殿

御新御堂 杉木性御釋揚 忠明と云り

一日 子公屋惣流忠直 後段あり 始々 大徳院御堂

台命御後中將忠直の意母 長見院 長子と云 又惣流御堂あり

一日 子台命酒井忠直より中東御堂 後小徳院あり 上小徳院

掃部介信頼御堂より子より家路と云 江村日信御堂

一 天正十七子巳丑正月 駿府群臣冬宴二日 御釋揚

一月 正月十八日 駿府城經營始

一月 正月十九日 中泉又將一少 二月四日 還御

一月 二月廿日 大地方 駿を以て 兵多破

一月 二月廿三日 信長志田之男 駿府有登 大陣御

一月 二月廿八日 御上座 駿府御首達 田中一忠 御二月廿

御入洛

一月 二月廿五日 内友 政長 後 薩下 叙 為 介 任 是より先 秀吉 豊臣 政長 後

一月 四月十日 駿府城經營成

正四日 秀吉 氏 政 氏 忠 義 書 之 与 介 文 畧

一月 十月廿九日 駿府御上洛 此日 小室 宗 隆 介 与 女 之 卒 始 名 初 乃 々

一月 月 御井 小 次 郎 家 次 後 任 下 叙 之 因 在 攝 任

一月 十月廿一日 濱松 志 御 二 言 吉 田 三 言 景 備 九 日 入 洛 十 日

秀吉 御 村 龍 如 弟 之 亡 子 故 一 月 十 三 日 御 歸 國 詔 不

一月 月 長 束 五 氣 正 家 稻 米 之 用 了

一月 冬 古 徳 院 殿 時 子 上 女 秀吉 御 村 龍 之 上 京 有 一

き じ 之 秀 吉 之 幼 雅 志 意 在 未 一 月 廿 九 日 也

古徳院殿家名へ也。止る。時、大徳院古徳院殿の長  
河井三内右衛門世後雅樂因友河とて後徳院三内友七  
忠藏後書陰下河井三内右衛門入信を信る。本時印在  
本時印在  
廿時印在

一 天正十八年庚子五月廿一日 古徳院殿駿河御首途御入信  
并御殿河井三内右衛門友七忠藏三内友七三内入信  
秀吉長束左衛門信長等御入信とて、信中方面也。

一日 五月廿二日 大徳院御産秀吉妹有明也云豊樂殿  
院殿 四十八文

又日 古徳院殿駿河御殿又奉り、十七日御入信、十八日駿河御殿

大徳院秀吉の長女は信長が女に、信長は軍士村松謙景の女に、  
又女は信長が長女に、信長は軍士村松謙景の女に、信長は軍士村松謙景の女に、

一 日 月乃神君御殿軍軍令格下り、

一 女下知而生かすと指紙物見又を可為回中事

一 先主と先紙合ふると人も有軍法之上の事子以下忠可成故中

一 女子細他之故、御文書於有之者氏は馬を、取之者及人及

是美若く可為回中事、他利而放有之者、ちりて可為回中事

一 人殺押時服及す、一帯帯、可申付、忠徳子、



一 旗之八寸之人可回軍事

一 人殺押時小旗旗施可施次者之定在何人をお原可押

一 櫻又押ハ可回軍事

一 物施ハ軍役之外より長物と長量もし得る事なく

一 停止但長物の外令物者之人馬也又可為一印之事

一 小新結押又華而可能催宗軍勢而物受振と果可申

一 付差より軍勢又物受者可成放軍

一 宗下知而男女可礼若取之陣后又隠量若若友主者可

一 改之自死自他物受主者則落其人之能可没収

一 夏付款地之家令能而若若不可放火事

一 旅高買押買根藉與停止せしめ旅遠宵之族若則可

一 成敗事

一 石之條之於遠宵者日本國中大小神祖養與覺物也亡

一 用捨可令成敗者也仍此件

一 天正十八年二月日

一 日昔程平之敵介家忠先陣とてい成り

十日御進軍中出御陣去日御宗然流忠致後能夏去川

松橋を修せしむる中令せしむる五日夏去川松橋成也

松橋成有るは五日中久保御陣先陣ハ五日秀右と合結

とんが御陣の中令有る事者今日成

一日 三月朔、秀右先陣東城を築き又畿内南海山陽山

陰の去七万余騎伊勢尾張信雅云一万余騎甲斐信康駿河

と河入る國 大勢二万余騎合二万余騎秀右軍

軍向の去冬、川筋力と堀水日紅巴と拓く馬行を断せり

石類の連舟を、馬行より秀右毛利石鳥江魁元を、東城の

馬橋より四万余騎 八日 大勢是明後十日通山表軍せり

松乃令せしむる

秀右十日吉田の山十日吉田と云んは伊勢人伊勢然  
そく皆水地あり毎時を怖く軍とあり秀右白

松乃初より川ありあり、夏城の先と後、是は後必先と云ふ事あり、

然流小軍、不可大軍、多死せん、秀右大軍、多死せん、

十四、秀右、駿河入の、ゆるり、怖く、吾軍、先陣、言、怖く、

十九日、秀右、駿河入、高城、首、大勢、不、東、山、

一、小、東、氏、政、氏、並、又、子、小、田、東、城、有、り、中、軍、初、

律、子、日、修、後、大、勢、若、如、高、山、角、上、編、入、福、橋、如、

細中由安の石末山蔵の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 軍取内信の友友在信信因大悟多美荒川則後より方敷甲申也  
 清水寺在安の山石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 日信多美在安の山石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 朝念石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 日夜大和の安中石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 恒念石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集

山中城ハ石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 好守朝念石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  

 好守朝念石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 好守朝念石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集

氏末石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 憲秀石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 中末石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 山城石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 山中石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 好守石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集  
 小田石末山蔵集の日記多美日即於蒲内石末山蔵集

正則長忠殿中より其旨通し花原守兵衛中川友成討書改  
表石を多敷改十田出初端ハ壘山と圍む又止江中綱を秀次  
中村常隆一氏甲を以て満長改死力と此山内討書  
一更一柳留書事入り長崎山中圍む如く皆書改  
不村常隆介中村常隆長秀長谷川友成ハ山中の者  
中々深谷を隔嶺難の事を聲書する所とせしむ

十九日亥別山中城ハ柳新牛別長崎中村一氏ハ長崎  
初長谷川田分大長谷一柳留書事入り長谷川友成ハ  
書物乃又書事入りを始討死と中川友成ハ丹波の城ハ

一 四月一日 柳新牛別長谷川友成ハ丹波の城ハ  
勢八十名級討死信々文書の湯ハ竹浦三子所より軍士中東  
迎入る二日 長谷川友成 柳新牛別長谷川友成ハ丹波の城ハ  
上方松村老老相親ハ陣後 北田中川友成ハ丹波の城ハ  
三日 小田原より柳新牛別長谷川友成ハ丹波の城ハ  
四日 中川友成ハ丹波の城ハ 八日 皆川柳新牛別長谷川友成ハ丹波の城ハ  
九日 柳新牛別長谷川友成ハ丹波の城ハ

高杉晋三の墓

秀吉小南東西首笠城山より陣と一城申と云下り  
見ゆれば是程の毎日一と一城申方と云く秀吉

高杉晋三の墓  
有買ハ石 大杉島子道と物と

高杉利家月利長右衛門路事と云く

上杉景信毛利河内守三万石を所上杉松枝城圍り約石

千石松山城圍り上田上  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

高杉晋三の墓  
大杉島子道と物と

先ハ惟我惟我元宗保長瀬之兄子朝子あり也。中末より書き〜

二日昔や上野國西牧城と相平修理人 善 貴〜也。乃書目録

春第カカノ村を以て國を倉庫のふも倉を納りし〜

河野重成が別致本松策形を〜あり〜とゞ〜と〜

大押長形古節の雷成黄福のり〜 即去揚 修理人 五日

大押長去山景味障帯の筆札を陣を後十八日河井三田痛

家次下徳國河井城を或部を又陣 陣とあり十九日若付城

上りの事河井重成の書 重成の重成の重成の重成

下城より景源の重成(九)〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成

日友重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成

重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成

重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成

重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成

重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成

重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成重成

宇治より去る者ありて、瑞々しく海地長改を以てし、又山中

山城より、瑞々しく支那の瑞々しく山城の瑞々しく、十四日、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく、瑞々しく

長原長興備中守中川秀政表と改修軍勢云々と圖じ  
 城之内山本守常守母に様々不承云々彼に討つ事  
 人神守長守常守母に様々不承云々彼に討つ事  
 弱くも討つ事守常守母に様々不承云々彼に討つ事  
 氏親守長守常守母に様々不承云々彼に討つ事  
 守常守母に様々不承云々彼に討つ事  
 城之内山本守常守母に様々不承云々彼に討つ事  
 守常守母に様々不承云々彼に討つ事  
 御守常守母に様々不承云々彼に討つ事  
 長原長興備中守中川秀政表と改修軍勢云々と圖じ  
 城之内山本守常守母に様々不承云々彼に討つ事  
 守常守母に様々不承云々彼に討つ事



九日氏政申氏權隠居安栖之宅に入秀頼祇束竹の事一編より  
出来討敵存之御事今悉く着し若去修りし修りし氏政奉  
教しし氏重を教せん 大御恩候しし福しあふ十日

大御恩小田東城へ移りし十日氏政氏權自教しし事。四村  
安栖宅へ秀老より石川飯沼より中村或於此南前田控し御休

活路を槍杖しし 掃雲抄於此南 大御恩合ひしし行雨竹等  
兼宗謙しし自教しし氏政并氏親合借氏親自言せん事

檢使乞を制 由緒小童山前午を氏權の首としし事。皆る事。大御恩。掃雲抄。御事。合ひし事。御事。十二不帰。

秀老申政氏權首を石田三成に合借兼反槍より兼宗自ら

三日小田東城より申入 秀老より兼宗より氏親に兼宗自ら

氏権松田左衛門山上彦右衛門乃乃孫乃因友左衛門兼宗

兼宗の合借大借事又亦二十人凡松後者之入人曰く誰く 兼宗

兼宗の合借大借事又亦二十人凡松後者之入人曰く誰く 兼宗

一 日 七月十三日秀老吉小田東城へ入 實左八右世平江原の地

九万石石納實地流石市場白頭堂中氷清見り各千石納田

二千石 大御恩より進せし事 氏親の御事五郎八中納言秀次

三玖高田十五万石地田三万石村越改行是備城入万石田中

管船水浦長石を及勝松城入十五万石堀尾常力若晴江城川

渡濃原の依駿河國八中村或船出楠一氏甲斐國加友をのり信長

小諸六万石仙石城がも信長伊東助之利河内も秀頼信長城筋

初日種中織物心をもて川にまきあを石川にまきあ初物場

小高信雄出羽の秋田へを流荒根志穂一々い有信く一堅子

不半寺子春相子文源元野見山秀吉 大津君高田多代地代主次

主子仙代を三玖へ引取秋意のしりこり被再とよし

投巧有事軍一叩きる旨知む依く一旦秀吉の情を止給

見んくら重次を上徳國小舟へ移り三千石堀尾頼房

秀吉故船屋の舟計り常忠感一是邦氏と改秀吉麾下

十五日大乃と駿河守小栗家四郎より一降乞利へ先鋒加らる

不義罪多ゆへ伊人梅田に教を十九日秀吉宇津屋より時

不多中督を捕忠信又信孫忠信を冑を賜七日城田中徳より

一万貫の地を与

一日 八月朔日 大津君高田多代地代主次 是と信長と云云 押入國と云

江戸城ハを山石高の依景改り在味や志蘇川村を助万文

山石丹波<sup>景改</sup>馬田路改り志と合御書

川村及び根草<sup>景改</sup>運切<sup>景改</sup>後御所なる御切寄を山

馬田と各加賜三子石合一万石と賜<sup>景改</sup>山石御切寄の御書

秀吉買入石ハ石御書御切寄御切寄御切寄<sup>景改</sup>馬田ハ御切寄

領と十日秀吉長長志具と合御書在り志具改事

らハ後とん御書とらハ御書とらハ御書<sup>景改</sup>西國に在ん秀吉御切

合御書の日大治安積二本松五郡四三方石藩生並御書氏口

与ふ萬石大崎三千方石石村御書又子子賜御書御書御書

御書長長御書三千方石賜十九日秀吉御書御書御書

廣獲自教御書<sup>奥五</sup>御書長改石高之御書各御書<sup>奥五</sup>御書

一 日 八月廿日 大御書と御書人子賜

上忍其瑞城 十二万石 丹保吉助水補直改

後名今有<sup>景改</sup>日國書御書御書御書御書

上総小多寺城 十万石 平多中勢太補忠侍

上忍鼓林城 十万石 柳原誠助右補直改

邑樂智田兩郡歸石田田額

相石小田東城 四万石 後幸 不加賜 大久保吉右衛門忠世

下總美作城 四万石 寺井長實元忠

上忍麻摺城 三万石 桑田貞平元忠

上忍友島城 三万石 松平新吉郎 後吉島美 柴田氏之

上忍雄水城 三万石 河井大月右衛門家次

上總久喜里城 三万石 大久保吉右衛門忠世

上忍文橋 二万石 奥平昌胤信昌

上忍鳴渡 二万石 石川石見守康通 後 長門守

下總小川城 二万石 小笠原信忠信房

上忍白井 二万石 平多賀後守廣孝

上忍應志 二万石 牧野石守元康成

上忍吉井 二万石 菅沼小太郎

下總美作城 二万石 松平三郎吉元 後 國 信

上忍穿面 二万石 松平園坊守康重

上總佐貫城 二万石 田原清光守家長

武取思付城 二万石 宇刀河内守清長

上総中尾 一万二千石 墨羽内膳正長盛之

武取奈良の利川 一万二千石 龍崎守執事長忠

武取忠城 一万石 松平之辰介長忠

武取川城 一万石 河井河内守重忠

武取羽生 一万石 大久保左衛門長隆 後北

上取河布 一万石 菅正新八郎重盛 後北

下総中尾 一万三千石 久野守重忠 宗隆

武取東方 一万石 松平和波守康長

上取那波 一万石 松平和泉守重宗

下総の内 一万石 藤村玄四郎 後北

武取八幡山 一万石 松平内膳正康廣

下総相馬 一万石 菅正山城守重政 後北

武取蒲山 一万石 内取三左衛門信成

武取深谷 一万石 松平源七郎

武取中尾 一万石 小笠原掃部左衛門

相見玉編

一万石

牛久保後寺正信

下総佐倉

一万石

三浦監物

下総豊産

一万石

木曾十次郎

武蔵川紙紙口

八千石

酒井石見守忠世

上野布川

八千石

松平初四郎信一

後伊豆守

上野梅境

八千石

石川日向守家成

上野市原

八千石

河野恒徳守正信

上野市原

八千石

牧野頼成守

上総豊原

八千石

大久保治右衛門忠依

上総赤化川

八千石

西尾昭成守吉次

相武総白

八千石

高木玄水正信秀

武蔵柄間

八千石

河原田重正守

上野三の森

八千石

松平入道守正信

下総佐倉

八千石

山本常力

武蔵久志野井

八千石

戸田左門一西

下総佐倉

八千石

千手院殿守

武見見賀尻 八子石 三宅惣右衛門康貞

武見見輝 八子石 三宅清次郎正貞

武見見月 八子石 永井石左衛門重信

上徳八井 八子石 柳平純信守家信

相見中助 八子石 善山常隆女忠成

武見見月 八子石 内友清三郎信成 後信

武見見浦 八子石 津田七五郎重忠

武見見田 八子石 戸田宗右衛門忠次

下徳小守 八子石 西口孫五郎重貞 後信

武見川誠飲 三子石 酒井七五郎忠利 後信

武見礼那 三子石 穀乐高三郎貞光

上徳小守 三子石 中身徳右衛門重次

上徳信浦 三子石 榎村玄仙守重忠

下徳小守 三子石 柳平宗四郎重信 後信

日圓白 三子石 緒重宗右衛門重成

光牧理右衛門元右衛門士重成

三子石 渡部半藏守謙

下総飯沼 武子石 杉平右衛門伊呂

上総山台 武子石 峰内長右衛門利貞 後言

武子石 千石 吉木長左衛門正次 後言

一日 九月朔日秀吉活湯ノ乳樂

一日 十月十日奥平昌高西大崎色一揆跡を本村浦一揆

本村伊豫守亦一揆の跡に伊豫守と出 伊豫守ハ昌高面敷也 本村ハ大崎在陣也

因前も此中を以て入大六日氏口被入ノ歎しやが

江戸又檄と飛一ノ船進一又田丸中督吉備使として白宗

援去を乞十月一日氏口之子義経合陣ノ流澤を分

橋代より軍と合す 時十月五日合陣也 橋代より三千里 六日氏口志取返す 橋代

七日氏口二市松あり 白宗 白宗万壽殿飯沼 元より一揆

組十九軍とあり氏口集一ノ一ノ一使を去一白宗ノ軍

とあり氏口白川より一白宗ノ軍被一十八日氏口

黒川に三軍乃藤乃中野向五陣あり一十九日吉田水と臨る

白宗病と稱一ノ軍を去る氏口名生城を去る



一 横河松山城 正家氏より武常子忠とて古河松山城  
 皆迎きて正家長頼曰御答申正家う返包と告り十日右村  
 又子氏陣に加ふるを市一揆城退治と名し城を  
 東郊の合をりて三月御聖長改奥忍信忠甲斐の檢地  
 終く御治と改さる駿府の時奥忍一揆の告を又再し  
 奥忍と改く先戸と改りて 大御忍と命を伺ひ  
 三月廿二日松山と云 大御忍奥忍御征伐とて軍を  
 引く御能り十日三河の奥忍を大御とて先遣  
 一 奥忍の御進軍を請く夫の御進  
 陣より奥忍を御自軍とて先石田三成を  
 一 大御忍の御進軍を請く夫の御進  
 陣より奥忍を御自軍とて先石田三成を  
 一 馬より正家領目攻入御さしむとて  
 一 三月廿九日 台徳院殿 信正位下子叙一のみ  
 一 日 子酒井雅樂次忠世 約命 台徳院殿家老と成  
 一 日 子右田新右衛門中政 及權分始く 大御忍とて御

一 日 子右田新右衛門中政 及權分始く 大御忍とて御

古時御と一平九

一 天正十九年 幸卯正月元日 秀次奥取御成し〜〜御成

二 氏口會津子孫音 大御意御進奉 志付意

一 日 四月九日 下野守忠吉 後藤 大坂合戦 御成し 十一日

十三日 大御意一揆平均御成し 江戸還御 十四日 秀次成敗

存中し 大御意後御

一 日 五月二日 大御意上洛 五日 御入洛 十日 江戸還御

一 日 六月七日 大御意奥取九戸一揆御成敗 奉申中向し

御進奉御成し 七月十九日 江戸御進奉 志付意御

十四日 浦生花御成し 氏口二万集結 有勢子孫 大御意御

丹波合戦 浦生改秀吉 浦生御成 長政 秀次 御成

第一 大御意 御成し 氏口 御成し 九月 氏口 御成し 一揆

御成し 井原合戦 軍功あり 十月 二十七日 大御意 御成し

古川 御成し 十一日 江戸 還御 晦日 石村 御成し 八日 四日

一揆を 退治し 御成し 御成し 所領 没収 正宗 合度

御成し 志を 御成し 御成し 御成し 御成し 御成し

為西大備子移す。正家不飲羽長長丹羽君長田村場松

運運信美新田を氏に又加賜せしむ。田領合百方石之糧支

と有勢大佐定ま揚 正家は是を授けし由に領内より一檢企し  
されし由に最人山田八郎中領内領内領内

仰く由り一檢と 今迄九戸領内元政一人一檢を授けし定を并報多記  
ころし一檢のこ 本領とすしころしと由りて是と賜り秀次是等

一 日 十月 秀吉朝鮮征伐に諸將を發す

一 日 月 黒岩陣 二方石松平三左衛門康元子揚 四万石

一 日 月 古庭惣兵衛忠造 後少将 中將 相模守村場

一 日 十月 十五日 冥厄八段寺社領の事 主内上総市東部 八幡御前子揚

前進 八幡文

上総國市東部 八幡文 白田

百五拾石之事

石山先親寄附之託守此旨跡抽武運長久

之精誠殊可也 祭禮之状如件

天正十九年十月日

上総國市東部 八幡文 ワラミヤ

サカクニ 村上ヤキキ コイ存申 コシヨ 以上

一月 三月廿八日秀吉成小美白秀次王繼是より秀吉  
を祈り太宰より小倉御入り八十

一 文祿元年壬辰正月九日 小倉陣大雲 二日御籠初

一月 二月二日秀吉朝鮮國征伐 大津島江御首途

柳東或初左衛門康政江戶又安 台徳院教子身仕江

康政 台徳島 津島川江 三日藤次 四日中東 五日小田原

六日三浦 七日信見 八日崎田 九日中泉 十日白須加久 廿日秀次 西若楽亭

初幸馬込 天正五年日 十一日長崎 十二日四日市 十四日雲地流 十五日

石部去日御入信

一月 二月十九日 柳東中津島島長 長島城 移し小田原

主殿不家忠先君 忠上代城場又日小田原川城 移住

一月 三月一日 秀吉先陣小田原中津島島長 移住長島城

黒田甲斐守長政 帝助と金剛解由と

一月 三月廿日 柳東石部島長 家康十四日馬平信口日

一月 三月廿七日 大津島帝助と小田原上松島給

信竹長政と初信由美信小 廿六日秀吉帝助と初 廿一日

小西加茂高麗の名を以て四月十九日小西報鮮國を全山浦

國九日城路二万多人討つ加茂高麗を全山浦呂宋城と按く

九月十日日本報鮮王城に入報鮮國主とてしよ  
王子臨海津光海とて稱

一日 七月十日 甲辰城路始 杉平家忠監之

十五日 小西大明寺祖廟刻史遊程と平塚守屋銀領方子物とてしよ  
人取とてしよ 十六日 薩摩國入

梅之目金(恒愛城)と稱く一捨金 秀吉を以て豊後津中長改

佐原國ありて八子津中長事長報とてしよ

乃神君と称く一捨金と稱く物之血書とて佐原國とて

進めりて一捨梅のを誅伐とてしよ 昔く梅く一舎向とてしよ

一日 七月二十日 秀吉の母乃改所 存福長とてしよ 秀吉津路

朝鮮國指揮 大邦君とてしよ 九月十日 乃改所 遊去 晦日

秀吉入洛 大極の中 柳高城  
大極の中 柳高城 八月十五日 古徳院殿 柳高城

張ふ 秀吉母  
遊去也 九月十日 鹿

一日 九月九日 古徳院殿 柳高城 任信とてしよ

一日 十月十日 秀吉洛とてしよ 古徳院殿 柳高城 十日 古徳院 還御

一日 二月 乃神君 秀吉名を以てしよ 柳高城

一日 白鳥平兵衛が信濃の里松平信臣に上りて徳院殿に

御難字場忠明と号 上五小帳 御難字場

一日 子孫坊安藤多喜が松平又武に御生駒川と号 上五那波殿 惣初場

沙町にりへ入

一文福子に云己正月九日 山城群臣 上徳院殿未更二日御難物

一日六日 大明教万路中書 七日 大明云多清加郎殿 八日 中書院に在 九日 明去 十日 明去 十一日 明去

乃云子孫に或る唯去郎七 四日 中書院に在 五日 中書院に在 六日 中書院に在 七日 中書院に在 八日 中書院に在 九日 中書院に在 十日 中書院に在 十一日 中書院に在

日不去御難物殿云 六月二日 松平信臣に上りて 七月二日 松平信臣に上りて

一日十五日 大明の使況惟教修二貫御用棒二人を御用棒と号し謝す

用棒 意云 大和名の御難言より入條一貫 唯昔 利家言より入

管せらるる秀吉より少西村長を大明へ報しむ 八月八日 松平信臣に上りて

一日 八月二日 秀吉 意云 兼て秀吉より少西村長を大明へ報しむ 八月八日 松平信臣に上りて

軍議よりハ 大和名利家より御難言と号しむ 八月八日 松平信臣に上りて

大和名も御難言と号しむ 八月九日 御難言に在九月二日

大和名御難言の中より入りて 上徳院殿に御難言 日中書院に在 意云

十月十四日 信臣より 大和名御難言十五日 信臣に上りて

十七日景清十八日白河実十九日中原其日皆田正百信忠了其日景  
正百山東正百の夜其日新東川正百の江戸入

日三日<sup>上</sup>加茂進心安慮致 大明名所記に云く探ふ所  
信正伏見の事 正月七日景使

大明正徳の十四日日本使大明帝也了。

一日子正命大久保治の人物志蹟 古徳院殿正命

一日子正命傳神志蹟正光後作下叙し此後其の事

正時御業の事

一元源三子甲午三月之日山城其後例如し二日御徳物

一日古日高吉伏見正徳築末二月群國の人吏死集の事

し子正命の事山城正徳の事経始有る事也

定む伏見城築の事止らる二月四日伏見城築の事

御群衆の事東御殿改定集の事御徳物下叙

正徳二万貫の事二百人役の事高吉の伏見の事

一日二月二十七日高吉正徳の花を身入り高吉及正徳知長

銀く 高吉の事高吉の事 傳奇會  
高吉の事 三日高吉山登 高吉の事

一日二月二十日 高吉の事高吉の事高吉の事

城經始人吏元或拾八百多人十曾 乃神忌伏見後仰

二十日秀吉伏見奉了十八日午後歸

一日 四月八日 秀吉親率利兵衛等上本陣所 申年走交在

至武藏野邊の城跡に秀吉を殊勝し  
休む所は皆上高麗子と云々短カテ

乃神忌より秀吉自ら以親を御使し 主使強回せり

一日 月秀吉 乃神忌元永永傳命臣晴豊氏後後 振集下

五月二十日秀吉有る 六月五日松平の殿女家忌

秀吉若夜服後さく 群とわけ 三日秀吉兼詰回見ん

一日 六月廿 乃神忌御殿に秀吉を招集し 御事會あり

六月廿八日秀吉午後歸り十九日乃神忌御使始

一日 九月 乃久保吉右衛門忠世奉拜

一日 九月 秀吉嫁し 乃神忌御使始氏池田之れ是射

卷改嫁し 武時世し 乃久

一文福のし未正月廿日 乃神忌在徳院殿治湯し 聖徳あり

御使の群は御言中し 奉り

一日 三月廿八日 秀吉奉り 乃神忌の言中し 奉り



管直事を以てしる 万部を以て香を造る

白絹二方被<sup>雨</sup>衣被百端千把八丈幅五百端裙三百端長光

る刀光忠刀仍光被刀良馬一疋 古徳院殿より白絹二千兩

衣被六十端被布百端殿馬一疋 香座より衣被三十

一 日 五月廿 万部を以て造る

一 日 五月 貞平信昌三男 古徳院殿より衣被御禱字

賜忠政置光徳光場 香座より衣被六十端被布百端殿馬一疋

一 日 七月三日 美白香次 香座より衣被六十端被布百端殿馬一疋

香次 古徳院殿より衣被御禱字

衣被御禱字 古徳院殿より衣被御禱字

香次 古徳院殿より衣被御禱字

古徳院殿より衣被御禱字

東方未明日也及 古徳院殿より衣被御禱字

古徳院殿より衣被御禱字

伏見より衣被御禱字

衣被御禱字

八日秀次は高野山入北口に出た。十日高野山に到着す。

十日秀次は高野山に到着す。十一日高野山に到着す。

十二日高野山に到着す。十三日高野山に到着す。

十四日高野山に到着す。十五日高野山に到着す。

十六日高野山に到着す。十七日高野山に到着す。

十八日高野山に到着す。十九日高野山に到着す。

二十日高野山に到着す。二十一日高野山に到着す。

二十二日高野山に到着す。二十三日高野山に到着す。

二十三日高野山に到着す。二十四日高野山に到着す。

二十五日高野山に到着す。二十六日高野山に到着す。

二十七日高野山に到着す。二十八日高野山に到着す。

二十九日高野山に到着す。三十日高野山に到着す。

三十一日高野山に到着す。一日高野山に到着す。

二日高野山に到着す。三日高野山に到着す。

四日高野山に到着す。五日高野山に到着す。

六日高野山に到着す。七日高野山に到着す。

日 五月八日因右大臣任一終小十日 沖末月

御平運高帝家系後天位下叙一秘記より終り

日 五月二十日秀吉男捨丸 世に捨丸中朝云 秀吉と号秀吉

日 車馬... 未也 五種志又車馬御入り小距離人

産後と 永身中居 田右衛門 御平白久 各各白次

一 日 七月八日秀吉車馬を木帳山に御入り今日御入始

一 日 至七月十日御入子別五地表六列及水浦御入

秀吉御見及御例と死よりとの致少御治湯大佛殿前

佛像被壞す伏見城中殿舎御例の條々上高平房吉之入

中在安の御入捨死秀吉ハ難と云々善なり 五種志

御殿門樓被例 御家入世凡集人ハ死す 愛宕山坊

舎皆例

一 日 八月八日大明使楊芳亮沈惟敏朝鮮人使黃朴弘長和

留の浦より九月一日秀吉再使上御入二日大明使 柳吉

秀吉大明の書と申々 爲り再ハ朝鮮入事ハ藏 朝鮮より 未時

十月十日木帳山普請

一日 三月六日 大野山於其宗家より三宅河原より道程あり

厨神くしん 寺主死宗家より老父久野宗安入くしん 宗家より老後

悲觀ひくわん 大野山河原あり 千石堀

一日 〇 柳平より元宿親より長次より

一日 〇 柳平より元宿親より 白徳院殿門前元後河原堀

忠利より長次賜物給

一日 〇 柳平より元宿親より 荒川より元宿親より

不時河より

一 慶長五年の正月五日 伏見味經始きんね 若狭地より前堀より

一日 正月五日 切取堀より長堀より 解とく 龍軍二月後

一日 六月二十日 大田宿より長次より下田より 古七

七月 〇 日中より長次より 十八日 若狭地より前堀より 八月五日 臨動河原より

揚明 九月八日 將軍義昭卒 九月十日 日明合戦終る 十三日 長次

宇治より下田宿より

一日 三月二十日 白徳院殿より堀元より河原より

堀元より堀元より 十七日 堀元より伏見より脚力より

永井油屋の白元印使油屋 福を回せり油屋

正日永井福光の日殺 右徳院殿白元明命尉 御山福光

高日徳正堂長教 正日永井白元伏見御山正日 御山福光卒七十七

一日子 右徳院殿白元徳正堂長教 御山福光卒七十七

一日子 右徳院殿白元徳正堂長教 御山福光卒七十七

一日子 右徳院殿白元徳正堂長教 御山福光卒七十七

一日子 右徳院殿白元徳正堂長教 御山福光卒七十七

一日子 右徳院殿白元徳正堂長教 御山福光卒七十七

永井油屋の白元印使の妻福光の御山福光

徳正堂長教の御山福光の御山福光

三日日平長全山 御山福光の御山福光

一日二月九日蒲生右衛門秀行余保三万石職せり

拾九万石秀行の御山福光 御山福光の御山福光

秀行の御山福光の御山福光

一日三月十八日秀行花を御山福光の御山福光

右日平長全山御山福光の御山福光

去日初に入夏州伏見故より群物より是者も病者あり友ら  
 既よ水頃 大御君家より御車改柳車座改取多共病石川  
 原通平忠親を亦友者より新毛と稱し東國の交々もく位  
 大御君車改り命り〜今秋陰初何也謂ふ始り行く見受  
 座より今命りなる車改而より向り〜地行り七月廿五日  
 病者より〜 大御君を指し〜 秋死ハ公天下の改と云ふ  
 大御君〜 辭〜 位〜 氏  
八月一日明命順天國  
少田村善光寺 善光病者  
 大御君の改と云ふ命りを元治子守娘と云ふ  
十日の御座

一曰 八月十八日花実白大改言位一徳豊日善光薨 六十一歳云  
 秋死ハ深く秘し〜 御車長改石川三藏通より御車より〜 秋死ハ  
 在陣の御車より〜 東朝せ〜 一〜 善光を運ぶの容易也  
 十ん〜 大御君利家御座あり〜 一〜 御車〜 一〜 御車〜 御車  
 善光幼雅のより大御君より任り〜 御車利家善光尾軍指毛利  
 魁元宗田善光天下大花加り〜 一〜 中村一氏生駒を世傳は善光と  
 中花より石川三藏通御車長改御車善光通御車善光通御車  
 御車行り天下の大事ハ大花是を御車〜 一〜 難夏ハ六年行

一 九月二日 台徳院殿 伊入 還所  
伏見 後所 伊入 還所 廿日 台徳院殿  
伊入 還所  
九月二日 台徳院殿 伊入 還所

一 九月三日 大光五奉行書より 秀頼を輔率と相云

一 九月三日 榊平物元伊呂男 十に文後 加也云 台徳院御前より 元後

伊豫場河下 忠実 服元 瑞 十六日 墨守 今 伊呂 元後

一 淡路守 伊呂 長政 石田 治 越 出 瑞 三 威 瑞 多 三 威 瑞 多 三 威 瑞 多

瑞 多 三 威 瑞 多 三 威 瑞 多 三 威 瑞 多 三 威 瑞 多 三 威 瑞 多 三 威 瑞 多

各自 國 々 瑞 多 三 威 瑞 多 三 威 瑞 多 三 威 瑞 多 三 威 瑞 多 三 威 瑞 多

一 九月三日 奥平 貞 隆 伊 呂 元 後 廿 九

一 九月三日 奥平 貞 隆 伊 呂 元 後 廿 九

此時 伊 呂 元 後

一度長江の己亥正月十日秀吉遺言より秀頼伏見の概

より大坂城に移り加賀大綱を利家始末大名先よる

大津島も御送りより大坂へ後御 行州市正 十日伏見へ還御 申入御

十九日有馬信元より後御登陸より黄野舟伊東政被免死

系り御借の人を疎く惜り御用務後還御の旨を御返り

言亮御言中より秀頼より御意務教別人を免るを御返り

を返り伏見申揚忠より御返り伏見十日兼元善光生駒

雅楽次中村或勢掃一氏如瓦市口吉晴 大津島の御返り

冬渡りより白秀吉葬去傍子を控より 堀裏の事 伊東屋

上病ふと起 横より遠く道より又白宗宅より使より攻む白宗の

秋よりより御より今井宗意様十の御言中より伏見中

静めより御返りより御より言中より御返りより御返り

一訪り福徳在り美田別黒高水田より長政取置御返りより

取置より長政取置より御返りより御返りより御返り

大谷利根御返りより御返りより御返りより御返り

飯前中綱より秀家宅より御返りより御返りより御返り



を承せんとす長政の白天下の大事一草金の後勿作り各  
々交わねば〜言を交わすも中制止も候〜三成  
を其の軍近引も黒田長政の計畧の〜徳大寺御等も  
亦月下旬伏見交代〜柳原長政は徳士伏見も強襲田  
〜亦告す〜行馬は難〜亦日伏見より旗本の夜後  
改らぬ礼装の形勢〜長政冬作も 万福忌を志を  
御感の〜御つ〜時年を拂て多儀候も正信御家  
熊荒志正大儀も長川上より通申る一騎がけよらる

大津山科院堀木候迄子騁〜群衆も時よ正信長政の  
所行も同も長政今度日誌の志  
きしりやまは候正信長政の電も付〜旗本  
長政東進の時よ 万福忌會有〜汝先子の美の罪あり〜  
秋寄より先へ〜お候も候志也〜く〜物も  
子考を荒也〜御多子四好〜りよ告給〜り〜り〜り  
御遠懐よ昔中令せらる石田三成  
八十路の志也長政願〜然〜り〜り  
一日 二月廿日 徳大寺の〜り〜り〜り 三光先を和せしむ  
る考を遺言〜り〜り 今交 万福忌奉行人御使の〜





百の音者呪く此の事ありて於てハ御程を申揚乞 合有く

還御の後伏見より進出りし處に於て三日伏見還御先

隊在後後、車政也五日向信御殿成 廿四日若くは寺僧より  
向信の御後より移りし

ち後より向て馬をたし  
右後隊の迎へ有く物也 廿月十日信成 後中隊より  
ち後より信

一日 翌三月二日加賀大御と利家率 ち三ノ文  
ち後隊と云ふ

一日 翌三月廿日加賀信成福信別荘末志奥地田越及後

中寺長尾尚書及加賀赤明口等 石田三成を討せん

とくち後隊御と三蔵と云定地十楕形。御と云作行あり

是を穿く三蔵の難を救はんといふ見たり御是の三蔵

を如無の事せ御 秀家ら備前河の定よりして

軍勢を加へて伏見の御事と御是を連城討及

と御討より多御後等と云上りよりハち三蔵を誅伐せり

御とハ却る御事方大名者御事より御事申揚せり

大御事御許言有く制より後三蔵を殺事止

七日石田三成の御事北山へ御事申す中合事あり御

秀家退りし中村氏御事吉時是上御事御事

秀康歸りしに 乃神皇向徳の御鏡又後りしに

伊藤光日と帝一毛利隆元依行以下諸名臣皆御子因

奏者を求りて日向徳の御鏡 水野吉成ら後成夜に

嘗て日向徳依行ととも老父志重の御鏡を御けり 乃神皇

山家乃河内守命とて是子中絶ししに 乃神皇の御鏡

十三日 乃神皇依行御鏡を移りし 乃神皇三人の中老先と執り

而て日向徳の御鏡を御けり 乃神皇の御鏡を御けり 乃神皇

一日 四月十七日 乃神皇依行御鏡を移りし 乃神皇の御鏡

乃神皇依行御鏡を移りし 乃神皇の御鏡を御けり 乃神皇

乃神皇依行御鏡を移りし 乃神皇の御鏡を御けり 乃神皇

乃神皇依行御鏡を移りし 乃神皇の御鏡を御けり 乃神皇

乃神皇依行御鏡を移りし 乃神皇の御鏡を御けり 乃神皇

乃神皇依行御鏡を移りし 乃神皇の御鏡を御けり 乃神皇

乃神皇依行御鏡を移りし 乃神皇の御鏡を御けり 乃神皇

乃神皇依行御鏡を移りし 乃神皇の御鏡を御けり 乃神皇

乃神皇依行御鏡を移りし 乃神皇の御鏡を御けり 乃神皇

乞を責射 万部表上使達一山口御も直交使と  
薩島へ馳しり矢根二子具畧夜百端出恒子備軍乃  
唯雄を同せしり時子薩戸出物子河書場

御下以後未申入り百以使者申ひ仍伊集院源次下  
殺讞相北ひ之中取く播代家人之取如指之矢為  
自今以後ひ之乃早御成故元ひ雖然也御今入  
粉末言多毛被修付更所要ひ未用彼若口上  
可申ひ案合者略ひ悲懼計長

慶長四年七月廿八日

家康

薩摩出物殿

昔薩戸出物書を献し伊集院より一語殺更  
致多し一進進し万部表又御元園場

一日六月宇志多島長戸川勝後書花房志戸書野  
紙列多御志表と成 并申ひ在る事元

一日八月廿日御入洛 昔御未因

凡分利長保四  
里宿越元保四

一日夏より朝鮮目代輝輪より竹中右左衛門毛利







長尾重隆も存存様をとり〜 存存〜り。又時よ山田も  
重友をつらとせし能晴を調へしは重隆源光の遊城と後

一 日 十月廿五日卯辰文信重幸 みづか

一 日 八日 晴向本東の終極〜 ち方物も 作行美吉 能流お重隆

中世國 能流源光の御業利長の〜 晴向本東願り〜 終止り

冊時字重の吉重と若光の推免揚中園の先驅ら〜 子令

下〜 源重隆心へ 利長 甲成の誓を合あり 抑〜し〜 惜〜

たを美と御使と〜 作秋の〜 跡〜 人〜か〜 三蔵ら〜 終て

相模領と御事重高の國光の推免を揚

一 日 十月十日 日蓮宗門の傳を〜 子大佛住持の時の外

お勤傳と又主信重のよお在せりる傳とお別と〜 宗論

及ち後西丸よ是を辨り 大御も万葉同〜 おと おと

双方神論 時よ 大御も合あり〜 大佛住持のよお在せりる人

宗門の授り〜 終〜 は是能又及〜 國を秀吉の進言

知り方の美曲と又〜 の〜 史と〜 一方の信重を流せり

一 日 廿三日 信田秀家と神論と各三絶柳東原及後〜 先を

つりふ浪し秘美破（唐）混雜（唐）...

一日 三月三日 大津大橋より河放鳥居不味入御前

河鹿社後より代友洲あり惟々川鹿史社を賦性（唐）...

此国を攻め師あり（唐）城田石栗細川面井石鳥居（唐）...

山岳乃河原是野の鳥井前羽子入お侍もよ昔還御

一日 七日 徳院殿御書（唐）伏見をい入御前

一日 十七日 荒川に帝九帝伏見城警言働（唐）...

操りては下宮備（唐）...

荒川より皇志と一々荒川より御説と一々...

一うんと新の川に母も去り一々一々...

二二雲間を道跡を絶（唐）...

大津の日に三帝常河原地性（唐）...

新地より赤ん子荒川より信下（唐）...

母も御横止

一日 三月八日 水師三皇（唐）...

一日 三月 河原丸も御志若歩行（唐）...

一日 三月十日 櫻村初吉 帝家次率 三十八

一日 三月十五日 安永中 綱之 魁元 男 友七 帝家次率 三十八

長門 大神 名 柳 系 武 船 右 衛 門 尉 俊 之 御 務

揚 之 左 衛 門 尉 中 事 右 衛 門 尉 俊 之 御 務 三十八

後 日 位 下 叙 也 中 時 御 務 三十八

